

# ナイルの流れに

カイロ日本人学校 Noboru Ozawa



H.27.9.18

No.20

## エジプト考古大臣（マムドゥーハ・エル・ダマーティさん）講演会

9月15日（火）にエジプトの現役の考古大臣が、カイロ日本人学校で「古代エジプトの歴史～ヒエログリフを中心に～」と題して講演してくださいました。大臣は、エジプト考古学博物館の館長を務めたこともある古代エジプトのスペシャリストです。考古大臣の主な仕事は、遺跡の発掘や調査、



手に持って見せている人が通訳、その右が大臣、さらに右が大使

保存をすることです。現役の考古大臣と書きましたが、**講演の3日前に突然内閣が総辞職**をして、開催が危ぶまれましたが、お忙しい中でも大臣は予定通り講演してくださいました。今回は、講演内容ではなく、考古大臣が講演するにあたっての周辺のできごとを紹介します。

現役の考古大臣大臣が来校するというので、**学校前の道が舗装され(それまでは未舗装で凸凹な道)、普段はゴミが散乱している道ですが、きれいになりました。**これは、学校があるギザ市長がきれいにしてくださいました。日本では考えにくいのですが、一般市民も役所の人もいわゆる「**縦社会**」です。大臣が来るから、道をきれいにしなければいけないと地元の市長が判断したのです。

また、大臣が来るとなると、在エジプト**日本大使も予定を調整して来校**されました。それが、外交儀礼なのだそうです。警備も物々しいものになりました。学校がある地区は、イスラム同胞団（反政府）支持者が多い地域なので、なおさらかもしれません。**ライフル銃を持った警察官が学校の周辺や玄関先に立っていました。大臣専属**



道のごみをあさる羊

**のSP**ももちろんいます。それからマスコミです。先にも書いたように、内閣総辞職が決まった現役大臣だからなのかもしれませんが、**エジプトの国営放送（テレビ）をはじめ、日本のテレビ局や新聞社など、たくさんのマスコミ関係者が取材に来ました。**

この講演を担当して、**英文での依頼文書**を書いたり日本大使のことを「**閣下**」と呼んだり、初めてなので大変でしたが、とてもいい経験になりました。初めは、単に大臣が来て話をしてくれると聞いたのでその話にとびついたらつもりでしたが、それだけでは終わりませんでした。**エジプト社会の構造や国と国との関わりのほんの一端ですが、垣間見ることができました。**私は、講演の間中、極度の緊張状態でした。すべてが終わった瞬間、たいへんな疲労感に襲われました。

※上の写真のように、なぜ羊が道にいるのかは次号で紹介いたします。